

本を出版しました！「認知症を生き抜いた母」

グループリビングえんの森入居者 安岡美美子

母が認知症と診断されてから9年、介護らしきものをして看取るまで7年の母の生き方と介護について本にまとめました。長く老人ホームに勤務し認知症については半ば慣れっこで、あらためて驚くこともなかったのですが、家族として認知症の親を介護すると初めて気づくこともあり、また知識として知っているだけのものが、身につまされて分かり納得させられることも多々ありました。

認知症の症状の捉え方として、近年では関係性が重視されてきています。記憶力の低下によって、本人と周りの環境とを繋ぎ止めるものがなくなり、本人はその存在が足元から崩れるような体験をし、不安や焦燥感に苛まれます。これに対して本人と周囲の環境との関係をうまく構築することによって、行動・心理症状も軽減され、おだやかに過ごせるというものです。

母は重度の認知症と診断されていましたが、娘である私との関係性を深めることにより、一方では施設やスタッフによるよい環境とケアに恵まれ、最後まで自分を見失うことなく独立した人格を保ち人生を終えることができました。認知症の診断は即絶望ではなく、やり方によってはその後の人生をゆたかに送ることができます。認知症の介護にあたっている方々、将来そのような立場になる方々に是非お読みいただき、希望と勇気を持っていただきたいと思います。

書名「認知症を生き抜いた母」

—極微の発達への旅—

クリエイツかもがわ発行 1600円

